

【2年（書くこと）】

ぴったりの言葉をえらんで、『自分だけの詩』を作ろう（「見たこと、かんじたこと」）

指導者 井出 愛子（山鹿市立山鹿小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

学びの土台

これまで：経験したことや想像したことから書きたいことを見つけ、伝えようとする
これから：伝えたいことを、言葉を選んだり並べたりして詩に表すことを楽しもうとする

学習課題

集めた言葉の中から、書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう。

指導事項

経験したことや想像したことなどから書くことを見つけること
B書くこと（1）ア

思考操作

集めて選んだ言葉から短文を作り、
順序を考えて並べ替える

言語活動

「自分だけの詩」を作る

<立ち止まって振り返る場>

詩に書きたいことはあるが、どうやって書いたらよいかわからないといった子どもたちの困りごとを取り上げ、本時の課題を設定する。

<考えを表出し比較する場>

「くりひろい」という言葉から想像する言葉を、友達と出し合うことで、いろいろな感じ方があることを知る。また、言葉を使った短文を順序を考えて並べ替えることで詩が作れることを捉えさせる。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、題材についてペアで話し合い、題材のイメージを理由を交えて伝え合って確かめることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

題材からイメージを広げて言葉を集め、心が動いたことを詩に表す活動を通して、進んで身近にある詩を読んで親しんだり、心が動いたことを作品に表したりする子ども。

第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 山鹿市立山鹿小学校 井出 愛子

- 1 単元名 ぴったりな言葉をえらんで、『自分だけの詩』を作ろう
「見たこと、かんじたこと」(光村図書2年)
- 2 学習課題 集めた言葉の中から書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう。

[指導事項] 経験したことや想像したことなどから書くことを見つれたりすることができるようにする。B書くこと(1)ア

[思考操作] 集めて選んだ言葉から短文を作り、順序を考えて並べ替える。

[言語活動] 「自分だけの詩」を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・この教材は、2年生が作った詩が3作品紹介されており、言葉の響きや簡潔な表現が親しみやすい内容である。
- ・前時の「ようすをあらわすことば」で学習した表現や、五感を使って感じたこと、気持ちを表す表現を用いて詩に表す活動である。

以上の特徴から、作品を通した見方の新鮮さや自分の身近でも起きそうな親しさの実感から、児童は詩を身近で楽しいものと感じて、詩を作る活動に意欲をわかせると考えられる。そのような学びを生み出すために、「自分だけの詩」を作るという言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子どもたちは、これまでものの見方や感じ方を豊かにするために、「きせつのことば」を学習し、「かんさつ名人になろう」でていねいに観察したことを、文章にまとめる経験を積んでいる。また、「ようすをあらわすことば」を学習している。

子どもたちは、いろいろな言葉に親しみを持って言葉集めをするが、そこから詩を作るのが難しい実態がある。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、「詩を書きたいが、どうやって書いたらいいだろう。」「どんな言葉を選んだらいいだろう。」「どこで困ったり迷ったりしたか。」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を授業の導入や終末等で設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

第二次においては、身近にある自然や経験を図や写真、動画で提示し、そこから思いつく言葉を挙げ、どう心が動いたかを表現していくことを共有していく。その際、見たことをくわしく表す言葉、五感を使って感じたことを表す言葉、気持ちを表す言葉、様子を表す言葉といった既習事項を想起しながら、詩とは、作文と比べて短く表す表現であることを捉え、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、『自分だけの詩』を作るために必要な視点や考え方について子ども同士で話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

[視点2] 共に学び続けるための工夫

身近な出来事や体験を振り返って思い出し、詩の題材とする際に、子ども同士の考えや思考の違いや共通点を可視化するために、それぞれが考えた言葉を出し合い、五感や気持ちごとに「言葉の分類図」に分類していく。それらを比較しながら、さらに詩に使いたい言葉を、その理由を挙げながら選び、ぴったりな言葉の根拠となるようにする。そして、学習した詩の表現と組み合わせて、詩を実際に書くことへとつなげていけるようにする。

4 単元目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。
(知・技) (1) オ
- 経験したことや想像したことなどから書くことをみつけることができる。
B書 (1) ア
- 積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、これまでの学習をいかして詩を書こうとする。
(学・人)

5 指導と評価の計画 (6時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○生活の中で心が動いたことを振り返る。 ○P98の三つの詩を音読する。	・日常生活の中で心が動いたことを考えさせることで、詩に表す経験をみつける準備をさせる。 ・声に出して読むことで、短い言葉の組み合わせから共感することや、言葉の響きの楽しさを体感し、詩に興味をもたせておく。	知 心の動きや伝えたいことの様子を的確に探している。 [ワークシート]
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 〈学習課題〉 集めた言葉の中から、書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう </div>				
二	2	○P98の三つの詩を読み、表現の工夫や「たいせつ」に書かれたことをたしかめる。	・三つの詩から、心の動きや様子が分かる言葉を見つけて、詩の表現の工夫に気づけるようにする。	知 詩を書くために、心の動きや伝えたいことの様子を的確に表す言葉のよさをみつけている。 [ワークシート]
	3 本時	○「くりひろい」から想像する言葉から短文を作り、ペアで一つの詩を書く。	・モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、表したい言葉を理由をつけて選び出してまとめていく姿を価値づけ、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出せるようにする。	思 言葉を集めたり、短文を並べたりして詩を作っている。 [シート・振り返り]
三	4 5	○これまで学習した表現の工夫を使って詩を書く。	・教科書の詩の表現を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返ったりして、読む人に伝わるような表現の工夫をするとよいことを伝える。	思 経験したことから書く材料を集め、表現の工夫を使って詩を書いている。 [作品]
	6	○友達の書いた詩を読み、感想を伝え合う。	・互いの作品のよさを見つけ合うことを伝える。	主 積極的に、友達の作品を読み、そのよさに気づいて、伝えようとしている。

6 本時の学習（3／6）

（1）目標

集めた言葉をもとに、短文を作り、並べ替えることを通して、詩の書き方を知ることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○詩の題名あてクイズをし、詩を作る上でたいせつなことを確認し、見通しをもたせ、自分達も書いてみたいと思えるようにする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○「どんなことを詩にしてみたいですか。」という問いに「体験してびっくりしたことを書きたい。」「大好きな○○について書きたい。」「でも、どうやって書いたらいいかな。」といった児童の素直な反応を取り上げて、以下のような課題を設定する。	詩の例 たいせつ
「くりひろい」の詩をつくって、詩の書き方を知ろう。			
15	2 「くりひろい」で思いつく言葉を出し合う。	○自分の詩を作る前に、身近な言葉に注目し、児童が体験したことをもとに自由に言葉を出し合わせる。その際、五感や感じたことをもとに表していることに気づかせる。そしてモデルの詩の提示から、詩を作る時の視点に気づかせる。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○「くりひろい」から、秋の森の様子、イガを踏んだ時の音、中から出てきた栗、ひろう楽しさ、友達との会話の様子など、友達と言葉を出し合うことで、いろいろな感じ方があることを知り、その中から言葉を選んで短文を作り、順序を考えて並べ替える活動を通して、詩を書き表すとよいことを捉えさせる。	ワークシート 言葉の分類 図
20	3 「くりひろい」についてペアで話し合い、詩を作る。	〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、ペアで表したい言葉を理由をつけて選び出してまとめていく姿を価値づけることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。 ◆集めた言葉の中から、最も表したい言葉を選んで短文を作り、詩を完成させている。 [発言・ワークシート]	短冊
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で学習したことを詩づくりにどのように生かすとよいかを振り返り、次の学習で自分の詩を書く見通しを持たせる。	